



第164号  
 2025年6月2日  
 NTT労組退職者の会  
 香川県支部協議会  
 TEL 087-821-7222  
 FAX 087-802-5995  
 発行責任者 下河 進  
 編集責任者 石川 正治  
 高濱 正二  
 e-Mail アドレス  
 H・P アドレス  
 ※両方のアドレスは、  
 枠外フッターに記載



暑中お見舞い申し上げます



NTT労組退職者の会  
 香川県支部協議会  
 会長 下河 進

連日、暑い日が続いていますがお元気でお過ごしですか。  
 歳を追うごとに年々暑さ・寒さが堪える年齢になりましたね。  
 香川退職者の会会員の平均年齢は77・5歳。とりわけ女性会員の平均年齢は82・7歳となりましたが90歳以上の会員が95名おられ、101歳の会員もお元気で頑張っておられます。健康第一にこの暑さを楽しんで乗り越えましょう。  
 猛暑厳しい折りですが、熱中症などに十分注意しご自愛ください。

「走るアンパンマン列車」 写真/橋 武義

### 7月の参議院選挙に全力

**国民民主**  
 (香川選挙)  
**原田ひでかず**

**立憲民主党**  
 (全国比例)  
**吉川さおり**

変わらぬ原点、立ち向かう志

参院選も投票日まで一カ月を切り、衆議院での与党過半数割れの状況を参議院でも実現するため激しい選挙戦が展開されています。  
 立憲民主党比例代表の組織内候補「吉川さおり」は現職7名と有力候補4名が立候補予定の動きにあり、三年前の比例代表7名の当選結果から非常に厳しい状況にあります。  
 1953年(72年前)の参院選全国区で全電通は初の組織内候補として香川出身の久保等の当選を勝ち取り、以降、歴代組織内議員は政治課題に対し、私たちの代表として活動したことを忘れてはなりません。  
 「吉川さおり」四選は今後の政治状況を考えたとき欠かすことができない候補者であり、比例代表選挙は個

人名での投票をお願いします。香川選挙区は連合香川推薦候補「原田ひでかず」とセットで闘います。  
 退職者の会員も減少と高齢化から、今回は家庭訪問による対面での支援拡大を訴えてきました。

**比例代表は個人名で必ず投票に行こう**

なお、投票率の低下が懸念され、期日前投票など、棄権防止も含め、会員皆さんのこの参院選に向けた熱い支援をお願いします。  
 (下河 進・記)

**戦後80年題**  
**戦後の声を取材**  
**地区協幹部が体験談を集大成**

今年太平洋戦争に敗戦した1945年から80年の節目に当たります。  
 第2次世界大戦での戦死者は、世界で8千500万人、日本で312万人と言われている。こんな犠牲をもたらし第2次大戦は人間の価値観を180度転換しました。戦前・戦中の価値観は「国のために如何に死ぬか」でしたが、戦後は「個人として如何に生きるか」に変わったからです。  
 10代後半から20代前半の青年が特攻隊として命を奪われ、沖縄では集団自決で家族が殺し合う悲惨な実態があった大戦時。他方、戦後は民主化政策とその象徴としての「平和憲法の制定」で日本は、戦争による直接的な死傷者は一人も出ていない稀有の国です。  
 しかし、終戦から80年。国際的にはロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区での武力紛争、国内でも憲法を形骸化する反動立法や軍事費の増大など悲惨で過酷な戦前に逆戻りする危険な兆候が年々強くなっています。  
 こんな危険な動きを食い止めるための施策としては、戦前・戦中の体験を「生の声」として、後世に語り継ぐことが有効です。  
 敗戦時10歳の人は現在90歳ですが、退職者の会香川県支部には90歳以上の会員が95人います。その内4人を選任し、地区協幹部による取材で、戦中戦後の体験を裏面に掲載しました。  
 10年先では証言者はいなくなるだけに、戦後80年に当たり、「会員の貴重な生の声」を歴史の証言として残す意義は大きいと確信するからです。(宮本敏彦・記)



5月26日に開催した第二回幹事会で県支部協として、戦後80年の節目にあたりNHKの「映像の世紀」世界は地獄を見た」を観賞した。第二次世界大戦中に起きた戦争の地獄の映像に、今も起こっている悲惨な戦争が重なり平和の大切さを強く感じた。  
 (石川正治・記)

戦火を逃げ惑う 国民学校初等科(現在の小学校)

終戦を告げる玉音放送

「これで生きられる。うれしかった」と語る

高松地区協 姫田 眞樹さん(90歳)

証言者 姫田 眞樹(90歳)



昭和33年(1958)年 松山統制電話中継所  
昭和33年(1958)年 徳島統制電話中継所  
昭和49年(1974)年 香川電気通信部(守衛)  
平成7年(1995)年 退職 60才



訪問者 石川 正治・高松地区協 事務局長(成文)



訪問者 国方 勲・香川県協顧問

死と隣り合わせの日常  
戦火に追われる日常は、今の生活

この空襲で姫田さんの担任の未婚の

昭和16年 国民学校初等科(現在の小学校)一年の12月8日  
戦時中、姫田さんは鉄道員の父が勤務する牟岐線の木岐駅の近くで住んでいました。  
昭和16年 国民学校初等科(現在の小学校)一年の12月8日  
ある日、幼稚園の弟を連れて帰る途中、空襲警報が鳴り、戦闘機の機銃掃射を受けました。私は地面に伏せ、耳を塞ぎましたが、弟は麦畑に逃げ込んだものの、耳を塞がなかったため、恐怖に駆られ、翌日から幼稚園に行かなくなりました。  
その二つは「高松、徳島大空襲と先生の死」についてです。  
昭和20年6月頃になるとB29が北上するようになり、鉄道官舎の数メートルの農家の餅つき灯りに爆弾が落とされ、危険は身近に迫るようになってきました。  
そして、7月3、4日、高松市がB29の大空襲を受け、北の空が赤く染まっていたのを覚えている、とのこと。  
徳島も同じ空襲を受けましたが、この空襲で姫田さんの担任の未婚の

1の開口一番、「戦後80年問題、これは良い企画です。」と姫田さんは歓迎してくれました。  
「空襲警報の時の逃げ方」を教えられました。それは警戒警報が空襲警報に替わると「固まらず四方八方に逃げよ、そうすれば助かる」というものでした。  
ある日、幼稚園の弟を連れて帰る途中、空襲警報が鳴り、戦闘機の機銃掃射を受けました。私は地面に伏せ、耳を塞ぎましたが、弟は麦畑に逃げ込んだものの、耳を塞がなかったため、恐怖に駆られ、翌日から幼稚園に行かなくなりました。  
その二つは「高松、徳島大空襲と先生の死」についてです。  
昭和20年6月頃になるとB29が北上するようになり、鉄道官舎の数メートルの農家の餅つき灯りに爆弾が落とされ、危険は身近に迫るようになってきました。  
そして、7月3、4日、高松市がB29の大空襲を受け、北の空が赤く染まっていたのを覚えている、とのこと。  
徳島も同じ空襲を受けましたが、この空襲で姫田さんの担任の未婚の

玉音放送は

むしろ「うれしかった」

「ポツダム宣言」を受諾する「天皇の玉音放送」について尋ねると、「8月15日の玉音放送は自宅のラジオで聞き、本当にうれしかったです。これで生きられる。と思ったからです。」  
軍国教育もあったかもしれない。しかし、機銃掃射の弾丸が身をかくす、尊敬する優しい先生が爆弾で命を奪われ、空襲警報のたびに防空壕に逃げ惑うなど「明日の見えない」戦いの終わりを悟った姫田・少年の率直な思いだったものと訪問した私たちは納得しました。

参院選にどう活かすかが課題

退職者の会の「戦後80年の取り組み」をどう活かすのか、姫田さんは、ロシアのウクライナ侵攻を見るとよそ事とは思えません。日本もきな臭くなっているのでは、たちまち参院選の争点として、憲法を活かし、戦前復帰や戦前を美化することを戒めるよう野党共闘の強化を追求してほしい」と強調しました。

幼き日の私の戦争体験記

大阪から集団疎開、そして小豆島へ

小豆地区協 那須 サチ子さん(90歳)

5月10日、小豆地協、泊満夫会長が取材のため、訪問し対話を重ねましたが、後日、那須さんから手記が寄せられましたので、以下、原文を掲載することとしました。

1935年 11月4日、大阪で産声を上げる。  
私の戦争体験は大坂から

始まり、母のふるさとである小豆島に小学校4年生の時に帰ってきた間のことです。しかし今になってその頃の記憶はあまり覚えていない……。

覚えているのは、確か生野区で生活していたと思う。小学校に入学してから戦火が厳しくなり私は奈良の大和郡山方面へ集団疎開で連れて行かれました。

名前を忘れましたが、お寺だった。月に一度、母親がお菓子を持って面会にきました。同級生も親と久しぶ

りに会えたから皆な「わんわん」泣いていたことを覚えています。  
天気の良いときは、みんなでお寺の縁側に座って「シラミとり」をし、たこもありません。今思えば「シラミ取り」か?…えっと思うかもしれませんが、その頃は当たり前前の事だったと思います。  
疎開先の防空壕から、大阪の空が赤々と染まっているのを同級生と眺めていた記憶があります。焼夷弾で生野区の家が焼かれた時には、母親が奈良の疎開先のお寺まで迎えに来てくれました。  
母親が「焼夷弾が側に落ちてきた横を必死で逃げてきた」と後日になって話を聞いたことがあります。  
大阪から小豆島へは母親と兄と私の三人で帰ってきました。(父親は私が小学校一年の時に病死したと母から聞いた)

小豆島へ帰る乗りものは、初めて乗る汽車と船で、高松からの船は小さな客船で座席は畳敷き、無茶苦茶酔いました。  
小豆島に帰ってからは湖崎小学校の四年生のクラスに編入されました。高松空襲の時には裏山に友達と掛け上がり空が真っ赤になっているのを眺めていました。  
家は親戚の納屋「富丘八幡宮」の大鳥居の側で田んぼの中の一軒家でした。母親の苦勞も計り知れないものがあつたと思います。当時の食べ物と言えは記憶にあるのは兄が獲ってきた「いなご」を焼いて食べた、麦飯の雑炊、芋づるの汁物、そして「おやつ」には「かんころ芋」を食べていました。肉には縁がありませんでした。魚は周りが瀬戸内海だったので良く食べました。  
皆が辛抱して同じようなものを食べていたので他人の生活が羨ましいとは思いませんでした。

今思うに、戦争は家も家族も力も持たない女性や子供を巻き込み、街も人間の心も全てを破壊し尽くす愚かなこと。しかも国民個人の意思でなく時の国の権力者と軍隊が起すものです。二度と戦争だけは起こしてはなりません。



泊 満夫・会長の話

四国には「イナゴ」を食する習慣はなく、これを食べるなどは想像もつきませんが、食物がなくなると食べられるものは何でも食べるのだなあ、と思ひ知らされました。  
衣食住が極限に追いやられる戦争は決して許してはならない、と痛感しました。

証言者 那須 サチ子(90歳)



昭和26年に中学卒業後当時の土庄郵便局の二階にある電気通信省に就職し交換職に就く。昭和42年3月24日の自動改式を経て、電電公社時代(土庄電報電話局)の再編合理化の波に揉まれながら少し早めに退職し現在に至っている。

年特集 らない 戦前復帰

会員の「生の声」

無条件降伏で敗戦となりました。国民は軍中で、敗戦を迎えましたが、空襲の危険はな最低生活を強いられながら生き延びる毎日に戻りさせてはなりません。そのためにも、あんなに尊厳を守り、平和を築いた4人の会員の証言を基に、地区協幹部執筆したものです。(宮本敏彦、編・著)

配給の受け取りは子供の仕事

玉音放送は理解不能

戦時中、小学生時代の思い出

# 「戦争が終わった」と聞き「ほっと」した

中讃地区協 小笠原 妙子さん(91歳)



小笠原 妙子(91歳)

証言者

1934年5月5日(生) 91歳  
1950年5月15日、電気通信省に採用、丸亀電話局に配属、電電公社移管後、電話運用課に40年勤続。  
1990年3月25日、退職(56歳)

く、自ら作ったわらじを履いて登校してました。  
小笠原さんのお父さんは工業ミシンを持っており、器用に古タイヤで靴を作ってくれたそうです。  
生活は苦しく、金属類の供出は学生服のボタンにまで及び、食料も野菜類はすべて配給でした。世帯人数で分量は決められ、名前を付け道路

終戦当時は11歳で城西国民小学校5年生、物は無く貧しい生活を送っていました。中学校は校舎でなく兵舎での学習でした。校庭(運動場)は、芋畑でした。男子はスバル夕教育で手旗信号を間違えるとビンタが飛んだそうです。教育勅語は男女とも暗記させられた、という。  
靴も鞆も無

に並べられていたそうです。  
両親が仕事に追われ、配給の受取は小学生の仕事でした。  
食料ではコメはなく裸麦や小麦粉、さつまいもの配給はあったそうです。おやつは、あんの代わりにかぼちゃが使われていました。小麦粉に膨らし粉を混ぜ合わせて蒸して食べました。

こうした厳しい生活の中、働き手は兵役、子供は勉強も出来ず、家事や野良仕事をこなしていたそうです。軍や自治体から防空壕を作れと指示がありました。金属類の供出などから満足な道具も無く、防空壕は雨が降るとすぐ水浸しになり人間が隠れるどころか貴重品など置ける状況ではありませんでした。  
天皇の玉音放送は夏休み中でしたが、ラジオの前に座らされて聞かされました。しかし、内容が十分理解できず、父親から戦争が終わったことを知らされたのです。空襲警報でもう逃げ回ることなくなり、子供心にも「ホット」した、と言います。  
米軍の高松空襲は、丸亀の上空をB29が通過し、すぐに東の空は赤く染まったそうです。

国際政治は国連憲章の重視へ  
小笠原さんの話を聞き、訪問者も交え今後の課題について、以下の内容を確認しました。



訪問者= 左から松浦貞次・事務局長、高鳥義光・副会長、久保法夫・会長(成文)

先の大戦から多くの事を学ばなければなりません。私たちは先の大戦の反省から2度と戦争はしないと国際社会に宣言したのです。  
本来、戦争抑止力として機能すべきは「国際連合」です。第2次世界大戦の戦勝国が常任理事国を担い「安保理」では80年間、自国中心に拒否権の行使をしてきたのです。崇高な理念を掲げる「国連憲章」をも一度、噛み締めるべきです。  
基本的人権、大小各国の同権、男女平等など人類の平和と繁栄に向けたもの。国連改革を推進し進め、「法秩序」が守られる国際社会を築くため、機能する「国際連合」が必要です。

# 戦後80年 許してはならない 暗黒の

あの頃を語る

1945年8月15日、太平洋戦争は「日本の国主義教育を叩き込まれ、戦火に追われるようになったものの、今度は飢餓状況を耐え、最悪した。もう暗黒のあの戦前と敗戦直後に逆悲惨な体験は「生の声」を語り継がなければ死守するためにも……。この特集は、取材が成文しましたが、編集部で体裁を整え、補

教育制度に翻弄された学生時代

戦前・戦中の教育

# 「教育制度が戦争を助長した」と語る

西讃地区協 吉良 晴子さん(91歳)

昭和16年、尋常小学校が廃止され、国民学校が設置。軍国教育へと変貌していくその年、吉良さんは国民学校初等科(現在の小学校)へ入学しました。  
「奉安殿」には、天皇陛下の写真が掲げられ、「教育勅語」により皇国民錬成(天皇を中心とする国民)に全てを捧げるよう心身を鍛えられる体制へ、つまり戦争を下支えする教育へと突き進んで行ったとのこと。  
そして、終戦後の昭和22年に学制改革が行われたその年、現在の新制中学校への入学。まさに激動の時代、くるくる変わる教育制度に翻弄された学生時代だったようです。  
その時の教科書は、戦前のものに黒塗りされていたものだったり、初めて導入された英語は、地元郵便局

昭和16年、尋常小学校が廃止され、国民学校が設置。軍国教育へと変貌していくその年、吉良さんは国民学校初等科(現在の小学校)へ入学しました。  
「奉安殿」には、天皇陛下の写真が掲げられ、「教育勅語」により皇国民錬成(天皇を中心とする国民)に全てを捧げるよう心身を鍛えられる体制へ、つまり戦争を下支えする教育へと突き進んで行ったとのこと。  
そして、終戦後の昭和22年に学制改革が行われたその年、現在の新制中学校への入学。まさに激動の時代、くるくる変わる教育制度に翻弄された学生時代だったようです。  
その時の教科書は、戦前のものに黒塗りされていたものだったり、初めて導入された英語は、地元郵便局

昭和16年、尋常小学校が廃止され、国民学校が設置。軍国教育へと変貌していくその年、吉良さんは国民学校初等科(現在の小学校)へ入学しました。  
「奉安殿」には、天皇陛下の写真が掲げられ、「教育勅語」により皇国民錬成(天皇を中心とする国民)に全てを捧げるよう心身を鍛えられる体制へ、つまり戦争を下支えする教育へと突き進んで行ったとのこと。  
そして、終戦後の昭和22年に学制改革が行われたその年、現在の新制中学校への入学。まさに激動の時代、くるくる変わる教育制度に翻弄された学生時代だったようです。  
その時の教科書は、戦前のものに黒塗りされていたものだったり、初めて導入された英語は、地元郵便局

長が代用教員として、教壇に立っていたとのこと。  
地区内で戦死者の合同葬儀も  
戦時中には、一回り年上の兄が徴兵される中、若くして、病死しても「戦死」扱いされず、何の補償もなく「犬死」同様の扱いだったようです。また、地区内で行われていた、戦死者をまとめて行う葬儀光景が思い出されることもあるようです。  
しかし、居住地が田舎であったことから、高松空襲のような恐怖感を味わうことは無かったようです。  
むしろ、「警戒警報」が鳴ると、学校も「サボれる？」ことから、嬉しかったというのが、子供ながらの本音だった、という苦笑いが印象的でした。

また、農家であったことから、幸いに食糧に不自由は、あまり感じなかったようです。それでも、日々の「麦ご飯」は、大嫌いだっただけです。  
学校への弁当は、検閲され、「白ご飯」は許されなかったことから、自宅に帰って食べていた、とのことでした。

平和を願い心満たされる社会を  
取材のための対話の締めくくり、今後の課題が話題になりました。  
吉良さんは、世界各地の戦火を憂



吉良 晴子(91歳)

証言者

昭和26年、丸亀市の電気通信管理所に入所。その後、観音寺局へ配属。電話交換、検査業務一筋、苦しい時代を乗り越え、57歳で退職。今でも、パソコン、スマホを使い熟しています。



今井 正・会長



安藤 秀樹・事務局長(成文)

訪問者

いつつ、「自然災害が多発している今日、自衛隊は軍事的任務でなく、国土保安隊として国民を守ってほしい」と訴えるなど、日本は大変危険な状況になりつつあることに危機感を示していました。  
そして、「日々当たり前のように起こる凶悪事件の数々。戦後便利な世の中になった半面、人間としての大切なものを失ってきているような気がします。  
戦後80年、本当に苦しく、辛いときもありました。しかし、人生5年毎の坂を上って行くんだ、との思いで今日まで来ました。だけど、今からは1年毎の『人生坂』を越えて行きたいと思えます」と複雑な胸の内を語りました。



1月から4月までに、古希、喜寿、米寿のお祝いに対して30人程の方から「ありがとう」を頂きました。近況報告も記されており、皆さん元気で頑張っておられます。

西讃地区

福田 信博 (喜寿) 観音寺市

喜寿のお祝いありがとうございました。最近体に若干の衰えを感じるものの何とか元気で頑張っています。これからも健康一番で過ごしたいと思っています。

井下 洋司 (古希) 観音寺市

古希祝いありがとうございました。二〇一六年に始

めた四国八ヶ所参りも今年で一〇回目、今回はゆつくりと観光をしながら回りたと思っています。

神原 照子 (古希) 三豊市

古希のお祝いを頂きありがとうございます。退職してからの一〇年間、あつという間に過ぎました。これからはゆつくりのんびり無理せず、健康に気をつけて過ごしたいと思っています。

間瀬 悦子 (米寿) 高松市

お祝いありがとうございます。お祝いは子供・孫達に優しくして頂き自分も元気でこれからも皆に心配かけず静かな人生を体にかけて生きていこうと思っております。ありがとうございました。

丹生谷武志 (喜寿) 高松市

今年正月2日は天気も良く「源平の里むれ」近くの幡羅八幡神社へ初詣「夫婦のとにかく健康」を願った数日後には退職者の会より「喜寿」のお祝いが送られて来て良い年の始めでした。ありがとうございます！

雉鳥伸由紀 (喜寿) 高松市

喜寿のお祝いを頂きありがとうございます。あつという間の七七年間、特に七〇歳を超えての月日の経つのは超高速、周りの人たちに迷惑をかけるまいよう健康に気をつけ感謝の気持ちで一日一善をもっとうに生活できればと思います。

川田 久志 (古希) 高松市

お祝いありがとうございます。

ました。八週に一度の定期健診を受けながら少しの田や畑で米と野菜作りに励んでいます。週末にはアマチュアバンドに参加し楽しんでます。

稲田 正三 (喜寿) 高松市

人生山あり谷あり、無事七七歳を迎えました。持病で通院の日々ですが、楽しく病氣と向かい合っています。

大坂 彰 (古希) 高松市

「妻に感謝し、母を見守る」をモットーとし、現役時代には想像できなかった日々を過ごしています。ちなみに、古稀の御祝は全て妻にプレゼントさせていただきました。ありがとうございます。

木村 雅治 (喜寿) 高松市

ありがとうございます。孫守りと、月一ペースで主に日帰りのバスツアーに参加し、がんばっています。

小豆地区

植松 利弘 (喜寿) 小豆町

些事な事にも優柔不断な性分の私です。そこで生活に減り張りを付ける事が心の健康に繋がると思いシルバーに入りしました。そこでは頑張る意識はせず充実感を得ています。また社会的にも後期高齢の範疇です。老害者に成らないように努めています。

車谷美知子 (喜寿) 土庄町

お祝いありがとうございます。

上原 令子 (喜寿) 高松市

三月三日ギフト券受け取りました。ありがとうございます。未熟児の私が喜寿!! 長く人生を楽しむ事ができて両親に感謝です。

多田 修 (古希) 高松市

週に三日ほど、テナントビルの管理人をしています。休みの日は病院通いと農作業です。

川原 正 (喜寿) 高松市

ギフトカードありがとうございます。ひざ痛と戦いながらの農作業を、細く長く続けられたらと願っています。

久保 淳子 (喜寿) 綾川町

この年まで生かしていただいている事に感謝の日々です。高松の空気を吸いながら月一回絵手紙教室に出かけています。地域では老人学級に出席して、講師のお話を拝聴し、知識を深めています。終了後は、学生時代

の友人達とランチの時間を楽しんでます。

安野 雅文 (喜寿) 高松市

農業と水利組合役員、農

中讃地区

北村 重徳 (古希) 坂出市

古希ギフトカードありがとうございます。古希を迎えられたのも家族のおかげと感謝し、日々大切に過ごしたいと思っています。健康のため、週二回の少林寺拳法の修練と三〇分程度のウォーキングをしています。

佐々木都実 (古希) 丸亀市

古希のお祝いありがとうございます。食う・寝る・遊ぶ」が趣味ですが、その中でも読書と温泉旅行を楽しんでいます。膝痛や老眼鏡等年相応の身体ですが毎日穏やかに過ごせる事に感謝しています。

大原 正博 (喜寿) 丸亀市

七七歳の御祝ありがとうございます。この年になると、みんなが言うようにどこか悪いところがあるのが当たり前。どうごまかしなから過ごすかです。お祝いは、奥さんが「少し足して記念になるものを買った」ということでした。そうします

吉田 正強 (喜寿) 坂出市

この度は喜寿のお祝ありがとうございます。年金が主な収入の私にとっては大変ありがたい。早速妻に渡し、喜ばれました。息子は「大きな会社はさすがし

協支店運営委員、土地改良区総代を務めながら、月一、二回の船釣りを楽しんでいます。

綾 勉 (喜寿) 坂出市

喜寿の御祝受け取りました。ありがとうございます。三月に緊急入院し、現在再度入院かもと気分が落ち込んでいます。健康が一番です。感謝 合掌

山田 良昭 (米寿) 多度津町

米寿にあたり確かにギフトカードを頂きました。ありがとうございます。今後とも健康には十分気を付け一〇〇歳まで生きられるように頑張ります。

松田 孝志 (古希) 丸亀市

以前から健康に不安がありました。高松の先生の言うとおりに運動、つまり毎日テニスをし、少食に努めています。が、体重は変わりなしです。こりゃアカン!

東讃地区

木下 郭 (古希) さぬき市

無事古希を迎えることができ、お祝いありがとうございます。読書や菊と野菜作りを楽しんでいます。残りの人生、何が健康で楽しい毎日を送りたいです。

井内 幸一 (米寿) さぬき市

大きな病氣もいくつかかりましたが、家族と一緒になんとか穏やかに過ごして

高松地区

新田トヨ子 (喜寿) 高松市

七七歳になりました。気持ち若いです。比較的元気なので、不自由な姉から時々ヘルプの要請が入ります。昨年から娘と美術館巡り、公園散歩を始めました。自然に触れる機会が増え、充実した時間を過ごしています。

久岡美佐雄 (喜寿) 高松市

このたびは、喜寿のお祝いをいただきありがとうございます。